

第 3 回鎌倉市総合計画審議会 会議録

- 日 時：平成 24 年 8 月 27 日（月）午後 3 時 00 分から 4 時 55 分まで
- 場 所：本庁舎 2 階 議会第 1 委員会室
- 出席委員：大住会長、安齊委員、伊東委員、薄井委員、山田（直）委員、石井委員、岡崎委員、神川委員、阿曾委員、山崎委員、植月委員、波多委員
- 欠席委員：山田（理）委員、波多辺委員、石井委員、金川委員
- 幹 事：相川経営企画部長、奈須経営企画部次長、渡邊経営企画課担当課長、下平経営企画課担当課長、小嶋経営企画部次長
- 欠席幹事：なし
- 事 務 局：関経営企画課課長補佐兼経営企画担当係長、経営企画課経営企画担当 4 名（武部、高橋、安富、塚本、平澤）
- 関連職員：なし
- 関連業者：2 名（トーマツ）
- 傍 聴 者：1 名
- 会議次第：
- 1 議題
- (1) 未来を共有する場づくり等について
- (2) 庁内の検討体制について
- (3) その他
- 配付資料：
- (1) 未来を共有する場づくり等について 資料 1
- (2) 庁内の検討体制について 資料 2
- (3) 鎌倉市総合計画策定委員会設置要綱(案) 資料 3

○会議記録：

- 会長 ただ今より、第 3 回鎌倉市総合計画審議会を開催いたします。本日の出席状況について、事務局からご報告願います。
- 事務局 ご報告いたします。本日の審議会は 11 名のご出席をいただいておりますので、本審議会規則第 3 条第 2 項の規定により成立していることをご報告いたします。なお、山田（理）委員、波多辺委員、石井委員、金川委員につきましては、ご都合により欠席される旨のご連絡を頂戴しております。
- 会長 続きまして、傍聴者の入室確認の前に、録音データの取扱いについて、事務局から発言を求められていますので、事務局から説明をお願いいたします。
- 事務局 8 月 22 日の審議会で配付した資料 4 において、録音データの取扱いに係る事務局の考え方について、ご確認をいただくものでございます。録音データは、会議録作成用に、録音しているものです。会議録(案)の作成は、委託業者が行い、約 1 週間程度お時間をいただきますが、それまでの録音データの取扱いにつきまして、確認をさせていただきたいと思っております。会議録の作成に当たりましては、案の段階で、委員の皆様にご確認いただく時間を設けており、発言内容の修正をいただくことになってございます。また、個人名などが含まれることも想定され、万が一、そのままのデータが表に出てしまった場合に、個人情報保護上、問題になってしまう可能性があるため、録音データにつきましては慎重に取り扱うべきものと考えてございます。
- そこで、録音を聴きたいとの委員さんから申し出がありました場合には、CD 等をお貸しするのではなく、閲覧という形で、対応したいと考えてございます。具体的には、経営企画課の部屋若しくは会議室等をご用意いたしますので、そこでお聞きいただくことを考えております。その際には、準備の都合上、事前にご連絡いただければと考えてございます。録音データにつきましては、以上の取扱いをさせていただきたく、ご確認をお願いいたします。
- 会長 具体的なことを確認したいのですが、録音データを実際にお聴きになりたい場合、経

事務局
会長 営企画課に行ってテープをお借りするということですか。経営企画課内のどこかの場所
で具体的に聴いていただけたんですね。聴いていただいて、メモをとるのは OK で
すよね。ところが、その録音データをダビングするのは駄目ですね。

事務局
会長 ダビングではなくて、その場で聴いていただく形にしたいと考えております。
必要に応じてメモを取っていただくに留めるということですね。分かりました。最終的
には、議事録は委員の皆様方、一人一人の発言を事後的に確認いただいて、審議会
の場での発言ですので、当然やや趣旨が分かり難い発言になったりとか、言い回しが
当然不十分だったりということがありますので、その点は直していただかないと、そのま
ま公開されると誤解を受けるという趣旨ですが、訂正前のものがそのまま出しまうと、
審議会委員の皆様方一人一人の発言が、ものすごく慎重になる、もっと言いますと、言
葉を一言一言選びながら発言しないといけなくなりますので、そんなことは避けたいと
思っております。

したがって、委員の皆様の方の後のチェックを経ないものについての扱いについては、厳
格に扱うべきと私も思います。事務局よりご説明がありましたが、この方法でよろしいで
しょうか。

(了承)

会長
事務局
会長 ありがとうございます。それでは、事務局からの提案どおりとさせていただきます。

それでは、本日の傍聴者の希望について、事務局から説明願います。

本日は、傍聴者 1 名の申し出をいただいております。

傍聴者の取扱いについて、お諮りいたします。特に問題がなければ、ただ今より、入
室いただいてよろしいですか。

(了承)

それでは、ただ今より、傍聴者の入室を認めます。

(傍聴者入室)

ここで、傍聴者の方に申しあげます。会議中は静粛をお願いいたします。発言は認め
られておりません。また、資料はこの場での閲覧に留めていただく様お願いいたしま
す。録音、撮影もご遠慮ください。よろしくお願いいたします。

続きまして、配付資料の確認について、事務局より願います。

事務局 資料の確認をさせていただきます。まず、会議次第でございます、資料 1「未来を共
有する場づくり等について」、資料 2「庁内検討体制について」、資料 3「鎌倉市総合計
画策定委員会設置要綱(案)」、資料番号がついていませんが、説明用資料としてパワ
ーポイントの資料がございます。これにつきましては、事前送付しておりますが、少し内
容が変わっておりますので、今回の資料をご参照いただければと思います。

それでは、早速議題に入りたいと思います。

会長
議題

(1) 未来を共有する場づくり等について

会長
幹事 まず、議題(1)の「未来を共有する場づくり等について」、事務局から報告願います。

未来を共有する場づくり等についてご報告申しあげます。第 3 次鎌倉市総合計
画基本構想一部修正および次期基本計画の策定にあたりましては、前回の審議
会でご了承いただきました策定方針(案)でもお示ししましたとおり、持続可能な都
市経営をこれまで以上に推進すると共に、市民力・地域力を発揮し、鎌倉が誇る
資源を活かしながら新しい魅力を創造し続けることが重要であるという認識に基づ
き、策定作業を進めていくことといたしました。作業を進めるに当たりましては、未
来を共有する場づくりとして、市民の皆様と共に計画を策定していく機会を設ける
必要があると考えておりますので、その内容につきまして、本審議会にご報告させ
ていただくものです。

詳細につきましては、担当よりご報告させていただきます。

事務局 (パワーポイントを使用して説明)

経営企画課の安富です。よろしくお願いいたします。

未来を共有する場づくり等について、その具体的内容につきましてご報告をさせてい
たします。本日、お手元に資料 1「未来を共有する場づくり等について」を配付させ
ていただきましたのでご覧ください。合わせまして、説明に当たりましてはスクリーンを
用いますので、ご覧ください。なお、スクリーンの画面を印刷したのも配付してござい
ますので、そちらもご覧いただければと思います。

未来を共有する場づくりについては、2 段階のステップで実施したいと考えておりま
す。まず、第 1 段階としまして、第一次素案までに市民意識調査、ワールドカフェ、市
長と語る懇談会を実施いたします。この 3 つの手法を第一次素案に反映させまして、

第 2 段階とし、この素案に対する意見交換を市民の方々、そして関係団体の皆様と行い、第二次素案に反映させたいと考えてございます。

それではまず、市民意識調査につきまして、ご報告いたします。市民意識調査は、基本計画に基づき、本市が進めている各施策の今後のあり方を分析し、検討するため、市民の皆様がどのように考え、感じていらっしゃるかを伺うために実施いたします。調査内容といたしましては、現行基本計画に掲げる施策の重要度、満足度を市民の皆様へ伺うものとして、市民の皆様へ伺いいたします施策の重要度、満足度につきまして、もう少し詳細にご説明いたしますと、現行基本計画の政策・施策体系図をご覧ください。なお、スクリーン表示は小さいため、現行基本計画の冊子の 4、5 ページを併せてご覧いただければと思います。

前回の当審議会でも少しご説明させていただきましたが、現行基本計画は、基本構想で掲げられた 6 つの将来目標と各将来目標に位置付けられる政策分野、スクリーンでは赤で囲んだものと、各分野に位置付けられる施策の方針、スクリーンでは青で囲んだもので構成されております。こちらの施策の方針について拡大して今回の市民意識調査についてご説明させていただきますが、今回の調査に当たりましては、こちらの施策の方針ごと、スクリーンでは「多文化共生社会」の施策の方針、例えば 4 の「国際交流・協力活動への支援」がございまして、こちらの施策の方針ごとに、重要度として例えば、「国際交流・協力活動への支援」が鎌倉市にとってどれくらい重要であるか、満足度として「国際交流・協力活動への支援」について、日々の生活においてどのくらい満足していらっしゃるか、そのようなことを聞く内容で構成しようと考えてございます。

具体的な調査票でございまして、スクリーンでお示ししたような形式となりまして、全 27 分野の施策の方針ごとに設問を 1 問ずつ設定いたしますが、施策の方針の中には市民の皆様の考えを聞くに当たりまして、内容が重複しているものもございまして、一部整理統合を行うなど、市民の皆様がご回答されるに当たりまして、イメージをつかみやすいような工夫を加えていく予定でございまして。

なお、本市では毎年、現行基本計画の進行管理を行うための市民意識調査も実施しておりますが、市民意識調査は対象を政策分野で実施しております。しかしながら、今回の次期基本計画の策定に当たっての調査では、対象を施策の方針ごとに設問を設けることで、よりきめ細かく市民の皆様のお考えを聞いてまいりたいと考えております。この市民意識調査でございまして、手法はアンケート手法、対象者でございまして、平成 24 年 9 月 1 日現在、18 歳以上の市民の中から無作為で抽出いたしました 2,000 人とする予定でございまして、なお、日程でございまして、9 月の中旬に発送いたしまして、3 週間の回答期間を設ける予定でございまして、その後、結果のとりまとめを行い、当審議会にお示しすると共に、集計結果につきましては、本市のホームページで公開いたします。そして、この市民意識調査の結果を受けまして、ワールドカフェを実施いたします。

ここで、ワールドカフェについてご説明いたします。ワールドカフェは、話し合いの場において、カフェテーブルのような小テーブルに分け、度々メンバーを交換することにより、参加者全員が知識や考えを共有することができ、多様な意見の創出が期待できる手法となります。具体的な流れをお示しいたしますと、最初の質問に対しましてグループごとに話し合いを行います。制限時間が経過した段階で、席替えを行います。この席替えが、先ほどのページで言うところのメンバー交換に当たるかと思いますが、そしてまた、次の質問に対して同じ様にグループごとに話し合いを行い、制限時間が経過した段階でまた席替えを行う、という作業を数回繰り返しまして、最後に全体の意見交換を行うこととなります。席替えを行うことで、先ほどご説明したように、参加者全員が知識や考えを共有することができ、多様な意見の創出が期待できることとなります。

近年では、横浜市や札幌市を始めとした多くの自治体におきましても、市民の皆様との対話を行う際に、ワールドカフェという手法は活用されておまして、本市においても、鎌倉ごみ合同チームや職員研修でこの手法を取り入れることで、建設的な議論を行うことができました。こうした手法により、未来を共有する場をつくり、市民や関係団体の方々との議論を行って参りたいと考えてございます。

なお、ワールドカフェの成否、ワールドカフェにおきまして実りあるご意見を頂戴できるかどうか、ということに関しては、事前準備で決まる、と言われておりますことから、スクリーンでは 3 回話し合う場という例を図で示させていただきましたが、実際に実施する際の詳細につきましては、専門家のご助言等を頂戴しながら、ご参加いただく市民の皆様にとっても、有意義な一日となりますよう内容を詰めていきたいと考えてございます。

話を元に戻しますと、このワールドカフェという手法を用いまして、まず、市民の皆様との場づくりを実施いたします。これは、次期基本計画期間中、平成26年度から31年度までになりますが、この間に取り組むべき施策は何かを、市民の皆様と共に導き出すために実施いたします。テーマは、「鎌倉の未来に向けて」といたしまして、先ほどご説明いたしました、市民意識調査の結果を説明し、その結果を踏まえて、市民の皆様と一緒に未来の鎌倉がどうあってほしいか、そして、未来の鎌倉を実現するために次期基本計画期間である6年間で何をすべきかについて考え、話し合っていただけるような内容となっております。対象者は先ほどご説明した市民意識調査の対象者の中から、このワールドカフェに参加されることを希望された市民の方といたします。なお、人数は170名を上限といたしまして、希望者が上限を上回る場合には、抽選等を行うことも考えてございます。開催日時、現在会場等の調整を行っておりますが、10月中旬から11月中旬までの間に1日、午前・午後になると思われますが、実施したいと考えております。

更に、ワールドカフェという手法を用いまして、市民の皆様との場づくりを踏まえた、関係団体の方々との場づくりも実施いたします。これは市民力・地域力が活きるまちづくりを推進するための施策を関係団体の皆様と共に考え、導き出すために、実施いたします。テーマは、“市民力・地域力が活きるまちづくりを進めるために”といたしまして、先ほどご説明しました、市民の皆様との場づくりの結果を説明しその結果を踏まえ、関係団体の皆さまと一緒に市や市民、関係団体が力を出し合い、協働していくために何が必要かを共に考えることができる内容といたします。対象者は関係団体の方々、上限30名でお集まりいただきたいと考えてございます。開催日時ですが、「市民との場づくり」終了後「第一次素案」作成までの間に実施いたします。

これら、ワールドカフェの取組と合わせまして、市長と語る懇談会を実施いたします。具体的には、「～市長と語る明日の鎌倉～ふらっとミーティング」と題しまして、市長が直接市内の公立小学校16校区に赴き、市民の皆様と意見交換をさせていただきます。日程は10月中旬から11月下旬まで実施いたします。

以上が、第一次素案までの場づくりとなります。そして、今までご報告いたしました内容を踏まえて、第一次素案を作成し、これが確定した後に、第一次素案に対するご意見をいただきます。市民の皆様に対しましては、鎌倉市意見公募手続条例に基づく意見公募、いわゆるパブリックコメントを実施いたします。また、素案の内容を説明し、市民の皆様のご意見をお伺いするためのフォーラムを開催いたします。なお、フォーラムに関しましては、前回の審議会において、委員より、市民に対する説明だけでなく、職員に対する説明を含めたフォーラムにすべきとのご意見を頂戴しましたので、そのような内容にできる様、調整していきたいと考えております。

また、関係団体の方々につきましては、直接お伺いし、素案に対する説明を行うとともに、ご意見を頂戴する機会を設けてまいります。なお、この関係団体には自治・町内会を含めたいと考えていることから、市民の皆様に対しましては、パブリックコメントやフォーラムに加え、直接ご説明させていただく機会を設けたいと考えております。

以上、今まで報告しました内容をまとめたものが、本日配布いたしました資料1になります。なお、前回の審議会において、ワールドカフェの結果をどのように素案に反映させたか明確にするようにとのご意見を、会長や委員から頂戴いたしました。市民意識調査やワールドカフェの結果につきましては、次期基本計画に反映できるよう分析を行うとともに、反映できない理由を明らかにするなど、ご参加いただいた方々へのフィードバックも含めまして、きめ細かく対応していきたいと考えております。

議題2におきまして、庁内の検討体制について報告させていただきますが、その後に、未来を共有する場づくりが当審議会を含めた組織とどのような関係を有しているかについて、報告させていただきます。

会長 今、ご報告いただきました、未来を共有する場づくり等につきまして、ご意見・ご質問がございましたら、よろしく願います。

委員 質問を3点ほどいたします。

市民意識調査について、重要度・満足度に丸をつける方法ということですが、イメージが膨らむ工夫をされますということで、どういう工夫をされるのか。というのは、今、例で見て「国際交流、協力活動への支援」が重要か、重要でないかを選ぶのは非常に難しく、正直、漠然とした質問だと思います。これからイメージが膨らむ工夫をされますということで、表現を検討されると思いますが、もう少し市民がイメージしやすい質問を考えていらっしゃるのでしたら教えてください。

この市民意識調査を2,000人に配付して、回収率というのはどのくらいのものを想定

されているのか教えてください。また、後半でご説明があるのかかもしれませんが、「ワールドカフェ」の進行係はどなたがされて、どういう方針で意見をとりまとめているのか、多分非常に活発な意見が出ると思いますが、そこからどういう方針で何を吸い上げるのか、全く違う結論が出てくるのではないかと想定されます。ですので、そのまとめ役の方がどういう風に動かれるのかということをお教えください。

また、関係団体というのは、町内会、自治会も含むということですが、それ以外にどういう団体を考えているのか教えてください。

幹事

関係団体については、本日お配りしました資料 1 をご覧ください。この資料 1 の下部に関係団体をお示ししております。総計審にご参加いただいている委員の母体も含まれますが、商工会議所、青年会議所、自治・町内会、市民活動センター運営会議、社会福祉協議会、観光協会、大船工業倶楽部等を考えております。

市民意識調査については、政策・施策体系図の施策の方針一つ一つについて、市民の皆様が満足度や重要度を伺っていく予定です。ただし、委員がおっしゃられるように、一つ一つの言葉ですと、中々イメージがつかめないこともございますので、言葉の使い方につきましてイメージが沸くような言葉を選んでいきたいと考えています。それから、もし必要であれば附属資料を付けさせていただきたいと思いますが、あまり多くの資料をお送りいたしますと、読んでいただけない場合もありますので、我々なりに分かり易いアンケートになるように工夫をしていきたいと考えております。

回収率については、私ども、第 2 期基本計画を進めていく上で、毎年、別の市民意識調査を実施しています。その調査は、2,000 人にお願いし、約 50%の回答率をいただいております。ですから、約 1,000 人の回答は頂戴できております。ただし、今回は少し分量が多くなり、回答率が下がる傾向もあるので、50%を上限として、頂戴できるのではないかと考えております。

まとめ方については、今日お示しできていないのですが、回答いただく方の属性を伺うようにします。男女、年齢、お住まいの場所という属性をみながら、それぞれの属性がどのような回答の方向性を示しているか、クロス分析を行い、色々な視点からいただいた回答を活かせるようなことを考えております。

ワールドカフェの進行については、私ども職員を中心に考えております。ただし、全体を総括するような形で、専門家の人に入っていた方が良いと思っておりますので、現在、検討中です。

会長

私が言うのも逆に良くないかもしれませんが、ワールドカフェの取りまとめについてですが、そもそもワールドカフェについては、問いにもよりますが、出てくる内容は、アイデア、方向性といったものが多いのです。鎌倉市さんが、今回実施するワールドカフェがどうなるのかは今後検討されるものと思いますが、市民の皆様方を中心にワールドカフェを進めたケースで、私が直接関わったケースとしては、大阪市水道局で行った大阪市民 100 人余りにお集まりいただいたものがございます。その場で、市民の皆様方からいただいた、考え、アイデア、場合によっては意見、そういったものについて実はこういったもの、という集約化のプロセスを、この後行っておりまして、個別具体的な意見、コメント、アイデアはキーワードの形で、あるいはフレーズの形で、数限りなく出てまいります。今日は説明がなかったのですが、ワールドカフェは模造紙をテーブルの真ん中に置きまして、そのテーブルで出た意見やアイデアをどんどん記述していくのですね。その記録に当たって、個々のキーワードやフレーズは膨大な数になります。100 人位の市民の方々が入られるだけでも膨大な数になりまして、それを 1 件 1 件個別に見るのは不可能です。例えば、参加している市民の皆様方の一人一人から色々なアイデアが出てきたけれども、今日の話し合いの中で、本当に大事なものは何かを出してもらい、集約するプロセスをワールドカフェの中に組みました。色々なアイデアが出たけれども、今日一日で、大事なキーワードをどんどん出してみてくださいとお願いしますと、人によっては 30、35 出す人もいますし、人によっては 7 つか 8 つかくらいになるかもしれませんが、一人一人の市民の方の意見、考えのウェイト付けを均等にするために、一旦どんどん出していただいた後に、その中で大事なものを 5 つに絞ってくださいということで、一人一人の意見やアイデアが、ワールドカフェの成果として反映されるウェイト付けを全く均等にしました。

市民の方々一人一人でご自身の考え方をまとめていただくプロセスを入れました。とは言いましても、ここから先は、おそらく、外部の専門家かトーマツさんか市職員の方か分かりませんが、かなり膨大な作業を担われると思うのです。一人 5 つのフレーズで、100 人ですと 500 ですね、170 人ですと、その 1.7 倍という膨大な数です。全体としてどういう方向性があるのかという、大きな方向性を導き出すための集約化の作業を行

います。おそらく、今回やられると思うのですけれども、方法は二つありまして、テキストマイニングというソフトウェアを使い、全体の傾向がなんとなく分かる様なものにしてしまうのです。例えば、色々なキーワードが出てきたけれども、頻度が高いものはこれ、あるいは類似の言葉はこれ、そういうものがまとまってくると、どうも市民の方々の大勢がこちらを向いている。それをデータとして得た上で、今度は人間の力で集約化していく。厳密に言うと、どこか漏れが出てくるかもしれませんが、総体としてはほぼ拾えることができます。こんなことを言うと、作業が縛られるかもしれませんが、いかがでしょうか。

委員

ワールドカフェに興味があり、今回初めて取り組まれるということですから、その成果をととても期待しています。ただし、市民意識調査の方は、先ほどおっしゃっていたのですけれども、例えの項目がずばり私も全然わからなくて、市民活動でたまたまその分野をやってらっしゃる方であったら、すぐく取組も分かるのでしょうか、全然違うところについてだと何をどう答えて良いか分からないと思うので、今まで具体的にこんなことをやっているという様なものが付いているといいのかなと思ったのですけれどもいかがですか。

しかし、全部の項目を一つのアンケートとして出すということですよ。そうすると添付資料が多くなってしまうので、それはどうした方が良いのかなと。全項目を一人の人にアンケートする必要があるのか、それともきちんと背景を見てもらいアンケートをしてもらうのでしたら、分野ごとに分けたほうがいいのかと思います。このままで、これでただこの項目だけで答えてと言われても、なかなか正確なアンケートが集まるのかなと感じました。

幹事

今、考えていますのは、アンケートの内容をいくつも分けて、とは考えておりません。それなりの回答数を確保したいと思っておりますので、やはり全ての一つ一つの問いに、皆さんにお出しした内容のものをお答えいただきたいと思っております。確かに我々は行政職員ですので、言葉の意味が分かってイメージが沸くのですが、市民の皆様は必ずしもそうではないと思いますので、その部分につきましては、なんとか工夫をして対応をしたいと思います。先ほど申しあげたとおり、大量の資料を添付する訳にはいきませんが、これについては、こういうものという資料を付けるなり、若しくは項目の言葉を少し工夫させていただくか、足りない部分は補足の資料を添付することで、ご理解いただけるような調査にしていきたいと考えております。

会長

関連することなのですが、今回、この市民意識調査票を受け取った一人一人の鎌倉市の方が、小さな施策の軸ごとに重要度・満足度を答えてもらうことなのですね。そうすると、冒頭にお話がありましてとおり、市民の方からすると、施策の中身について詳しく分からないものがある可能性があります。更に言いますと、仮にその施策の中身がある程度理解されたとしても、重要であるとか満足しているとかの判断が必要になるので、判断するための材料が更に必要になるのです。そのためには、どういうものがあればいいのかということですが、鎌倉市には、一つ一つの施策の実施状況、これまでの基本計画の実施状況について、調べられたものが統計的にもあると思いますので、そういったもので使えるものがあれば、当然データとしてこうなっておりますということをお示しできると思うのですが、その際におそらく2つのことが大事になります。

鎌倉市の個々の施策、例えば「国際交流・協力活動への支援」について、重要度と満足度を市民の方々がお答えになる時に、一体、鎌倉市は国際交流や国際協力への支援がどうなっているのか、例えば、他の市、近隣市と比べて良いのか悪いのか、他市との比較みたいなものが求められるかもしれませんね。もう一つは、ワールドカフェや他の作業で必要になることと思うのですが、鎌倉市としてのまちづくりの特性、どういうまちづくりをめざしてきたのか、という鎌倉市の個性の問題です。そんなこと言っても、この分野は、例えば逗子市と比べて重視していない、だから劣っていても仕方ない、ところが、鎌倉市はこの分野に力を入れてきた、だからここに例えば藤沢市よりも良くて当然だ、という2つの意味で真剣に悩まれるのではないかと思います。それに対する、ヒントになるようなものがあると、市民の方としても答え易いのではないかと思います。難しいのですが、それをコンパクトな資料として、そして、それに対応させる形で載せることができればベストですが、他市との比較で、鎌倉市はどうかということと、これまでのまちづくりでこういう分野を非常に重視してきたか、という2つの価値判断をする情報が提供されていると良いと思うのです。

委員

紙ですと量が多くなると思うので、インターネットにつなげる人は、ここを見ればこの情報があります、というものを付けたらどうですか。そうすれば、かなりの人が、興味があれば見てくれるのではないかと思います。

幹事

まさに今、その様にお答えしようかと思っていたところです。実際、毎年実施している

市民意識調査は、細かい資料をお渡ししないで、皆様の生活の中の実感としてお答えくださいという意味で実施していました。今回は、それを踏襲する形だと思っていたところですが、確かにホームページでは、行政資料や他市との比較、ベンチマーク、満足度が上がっているのか下がっているのかなどの材料を全て公開してございます。ここで詳しい内容はご覧いただけます、という注釈をつけた形でお送りするのも一つの手かと思いますので、検討させていただきます。

委員 なかなか意見が言いにくいですね。全部で 24 項目ありますよね、各分野が平均 5 つだとすると、100 項目になりますよね。100 項目について、抽象的で、説明もなく、答えなさいというのは、まず私は拒否しますね。鎌倉市のことが好きだと言っても、しかも、それをインターネットで全部調べてとは、基本的にはちょっと分かったものではないですね。

幹事 ある意味で憶測にはなるのですが、先ほどご説明申しあげたとおり、毎年、市民意識調査というものをやっております。市民意識調査の分量としましては、今回実施しようとしている市民意識調査とさほど変わらない分量になります。ですから、市民の皆様も、鎌倉市がこういう質問しているから、ということでお答えいただけるような傾向をお持ちです。そこで期待したいということが正直でございます。

委員 どうですか、やりますか。私は拒否しますね。

委員 確かにこれは、今のそれぞれの項目に対して、重要度と満足度に丸をつけますよね。ひとつの感覚として、これは重要であるかそうでないか、単純にここで比較する程度しかできないと思うのです。これだけの項目があるのですから。仮に、重要であるということであれば、その施策としては進めなければならないという認識が市民出てきますよね。それが、いや全く重要じゃないというのが大半を占めてしまう。また、満足度で、不満だというような項目が仮に出てきた場合、その項目に対して検討し直して、項目の中身を変えろといった方向に発展するのかどうかというのが分らないです。市民の意識として、そういうものが出てきたとなりますと、市としても検討していくという方向になりますか。

幹事 従前からご説明申しあげておりますとおり、アンケート調査だけをもって、何かの結論を出すということは考えておりません。ただ、期待するところではありますけれども、通常ですと 1,000 人位の方からアンケートを頂戴できる形になり、それなりの数の皆様のご意見をいただきますので、分析させていただいて、先ほども申しあげましたとおり、色々な属性の中からどういう傾向が見られるのか、もちろん今後の行政の中で参考にさせていただくこと、基本構想、基本計画の中でも参考にさせていただくことを考えております。

委員 「総合的」と「総花的」は違うという点で各委員と同意見です。第 3 次鎌倉市総合計画について見ると、あえて番地にたとえれば、「人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち」を 1 丁目とすると、1 丁目 3 番地から最後の 6 丁目 5 番地まで各項目が並列してあることになります。しかし、第 1 回の議論で提示されたとおり、すでに鎌倉市が行政体として持っている(選択と集中の)「仮説」があると思うのです。それは、今までの計画ではいわば「総花的」に実施することになっていたことが、今後は財政制約によりなかなかもたない、だから、防災なら防災にもう少し軸足を移した、新しい企画を作らなければならない、といった説明であったと思うのですけれども、そうしたいくつかの「仮説」が、全部でなくても良いのですが、はっきりと見えるような形のアンケート調査であるべきでしょうし、それに対して市民の方でも、いま切実に抱えている問題点を出していただく、という方がよいと思います。答える側からは、もちろん、賛成、反対色々なご意見はあるかもしれないが、いずれにしても課題に切実に答えてもらえるほうが、「仮説」を持っている市の方としても、今度行政体としてそれを実施する際に参考になると思います。「総合的」と「総花的」は明らかに違います。今のままの方法論では、「総花的」となると、結果的に全て大事ということになりかねません。そのアクセントのつけ方というのを、もう一度考えられたら良いと思います。

委員 素人のアイデアなのですが、一つ一つが重要とか、あんまり重要でないことを聞いても分かりません。例えば、「多文化共生社会」というカテゴリーの中で 4 つ項目がありますが、この中でどれが一番大事ですか、順位付けするとしたらどれがなくてもいいですかとか、どうせざっくりした質問になってしまうとすれば、明快な方が、個人の意見が反映されやすいかという気がするのですがいかがですか。一つの項目について、「重要」から「分からない」まで 5 種類も選ばせる見えにくさよりも、4 つの優先順位をその人はどう考えているか、その優先順位をつける上で、例えば資料として、何か見たい場合はネットで見られるようにするとか、そのアンケートとしての質をどの程度求めているらっし

やるのかというものが、実感として分かりません。アンケート調査をした中から、ワールドカフェに出席される方が選ばれるわけですね。できれば、その資料となるようなものがアンケートから形成されて、それもワールドカフェの土台として、アンケートでは優先順位的にこういう流れですがどうでしょうかとか、そこが切れない方が、手間とか皆の仕事の大変さをうまく活かしていけるのではないかと思った気もしたのですが、いかがですか。

幹事 正直、なかなか即答できない部分ではあるのですが、実はアンケート調査自体は、ある程度作りこみをしておりまして、先ほどスケジュールを簡単にご説明しましたが、9月上旬にはアンケートを送付させていただいて、それをどのように活用するのかということは、市民の皆さん170人にお集まりいただくワールドカフェの場で活用していきたいと考えておりますので、大きな変更はなかなかできない部分もございますが、本日いただいたご意見の中で、取り入れられるものは当然取り入れさせていただきたいと思えます。一つ一つは難しい部分もあるかと思うのですが、例えば、情報をなるべく流すなど、行っていきたいと思っております。

会長 補足させていただきたいのですが、重要度と満足度の2つの軸でアンケート調査する意図は、当たり前なのですが、あれかこれかというような重点分野を選択するための基準のひとつ、根拠のひとつを得るためです。施策ごとに、仮にある分野が市民の皆様の多くが重要だと考える人が多いけれども、その分野の現状に満足していない、要するに不満である方も多い、それは充実させなければいけない、こういう結論ですね。逆に、現状に満足される方が多くて、重要度が仮に低いというものがあつたとしますと、その分野は重点化の対象から外す、あるいは極端な話ですけども、予算を大きく削らせていただく、というような根拠付けに使うということですね。ただ、これはあくまで資料の一つですので、現実には振り分けられないというのがこれまでの重要度と満足度を基本とした市民意識調査の結果でありますので、それを分かった上で今回またやられるということなのですね。要するに、ひとつの指標として使いたい。それを克服するための一つの方法は、市民の皆様により理解をいただいて、より真剣に、より本当に一つ一つの項目をお考えいただくような時間と手間をお願いする、というのも多分一つの解決方法です。

それをやったケースが藤沢市でございまして、藤沢市は基本計画策定プロセスで、このアンケート調査をするのに合わせて、アンケート調査に答えられた方全員ではないけれども、その中で都合のつく方々にお集まりいただいて、「討議型意識調査」というものを実施したのです。これは何かというと、この意識調査の裏付けとなる内容をより理解いただくための討議の場を設けたのです。再度、同じアンケート調査に答えてもらった。こんなことを実施したのです。その結果どうなったか、ということですが、確かに、最初のアンケート調査、要するにミーティング討議の場に来る前に、アンケートした内容と、討議の場を経て中身についてご理解をいただいた上で、アンケートにお答えいただいた内容で、やはり変化があるのです。こんなに変化がありました、ということなのですが。

これをやるかどうかということも、多分事務局側で検討されたと思うのです。しかし、お金と時間・労力が掛かったのですが、それで十分使えるものになったのかというと、そこまで市民の皆様方の労力も掛かりましたけれども、それで使えるものになったのかというと、そこまでいかない。というのが、藤沢市のケースだと承知しています。だから、それを鎌倉市でやるのかということをも多分検討されたと思うのですが、市民の方々の労力、時間、費用を含めまして、コストと効果が見合わないという結論になったのではないかと私は推察しております。これはこれとしてやらざるを得ないということではあると思うのですけれども、これで結論を得ることは、多分藤沢市のケースを見てもできないと思うので、参考資料のひとつにしか過ぎないとして今回やられると理解しているのですが、それでよろしいのですか。

幹事 そのとおりです。

委員 私は図書館市民活動が長いので、その窓口からみますと、例えば、図書館協議会という会があります。教育委員や社会教育委員会、審議会、協議会など、鎌倉市にはそれぞれ市民委員の意見を聴取していこうという行為が予算も伴われてされていると思うのですが、そういう審議会、協議会の声というのは意見聴取の中に入っていますか。例えば、教育委員会マターを扱う時に、当然、教育委員会に落とすというような形になるのでしょうか。

幹事 今回、この市民意識調査を始め、市民の皆様にお伺いする時に、一人一人のご意見を頂戴する形になると思います。委員がおっしゃられた、例えば教育委員会、図書

館協議会といったところの皆様のご意見は、この後ご説明いたします、役所の中の意見公募や策定の組織の中で、各課の意見というものがどんどん吸い上がってくる形になります。私どもの方で、後でご説明しますが、策定委員会に対して、基本計画素案の叩き台のようなものをお示しして、その叩き台について各課が検討をする。その際に、各課はその後ろにいらっしゃる市民の皆様の思いや協議会の思いを反映させて、今後を見据えたらこういう風に直してほしい、というような意見をいただくというような形で、どちらかというと庁内の取組の中で吸い上げていくご意見になるものと考えております。

委員 幹事 ある時期に、審議会や協議会に諮問が降りてくるという形でしょうか。

委員 幹事 そういうことではなくて、各課が、審議会や市民の皆様の意見を把握しておりますので、その把握している意見や思いを各課が反映させるという形であり、例えば、図書館であれば、図書館協議会の皆様にこういうものが出ましたという形でお見せするかどうかは、それぞれの協議会次第だと思うのですが、基本的にはそういう形ではないと思っております。

委員 幹事 協議会とか審議会からの意見を求めるのではなく、結果をお知らせするという形になりますか。

委員 幹事 うまく説明できなくて大変申し訳ないのですが、総合計画の策定の中で、各政策分野の中に、色々な協議会というものもあるのですが、それごとに意見を投げるようなことはいたしません。各所管課に意見を聞いたり、一緒に作業をすることはございます。その中で、各課が、その後ろ側にある審議会といった部分の意見や思いを吸い上げた中で、ご回答いただく。実際、日常的な業務の中で、サービスを受けている市民の皆様の思いや協議会の思いを承知しているはずですので、その承知している思いを受けて各課が答えをする、という流れになりますので、個々にそれぞれの審議会に、総合計画はこういうもので意見を投げていくことは通常しないものと思っております。

会長 委員 いかがですか。

会長 委員 先ほど、ほぼ会長がまとめられた後に、違う意見を申しあげるのですが、このアンケートは、そもそもアンケート自体に大きな期待というものは、そもそもかなり難しいものであり、アンケートの結果というものが真値なのかと言われたら、それは真値ではないと思っております。それは無作為に抽出された 2,000 人の方々の意見ということから、既に意識の高い方、高くない方が沢山おられるので、そもそも現状の把握のための手段だとアンケートは統計側からは言えると思います。

今回、基本計画に結びつけるための大きな出発点、ワールドカフェから次々枝葉が出ていくのであって、アンケートは現状の市民の方々の今どんな風に意識が出ているのか、いわゆるこのアンケート項目に分からないという項目にどれほど付けられるのか分からないですが、それも含めて意識を見るのがアンケートであって、市民の感覚を得ようと思ったら、裁判員制度みたいにある程度時間を掛けて、知識を色々つけてもらい、市民感覚を吸い上げるというのでしたら、それはそのとおりの方法だと思っておりますが、アンケートという形であれば、現状把握をするというのが、アンケートの立場というか、立ち位置だったのかなと私は考えていたものですから、そこに市民感覚を得るための膨大な作業というのは、ここは出発点ではなくて、現状把握のための最初の 0 次、立ち位置なのかと理解しました。

委員 先ほどの委員のお答えについて、いずれ庁内検討として各課に流れますよね。各課というものは、各課に向かって流れていくと思うのです。その中に、各部の中には、今言われた様に、協議会組織を持っているものもあるし、そこに実際として流れていくかどうかというところは、各課の思いの中で判断されてしまうということで、実際に私も、環境保全推進会議の代表をしていますが、そこに実際に環境問題として、こういう施策が出ますということが、実際に各課通じて流れてくるかという、おそくないと思うのです。ということは、環境保全推進会議の中で行っている環境問題についての協議と、これから決まるであろう総合計画の中で、実際に環境保全推進会議として、中身を知らない中で進んでしまうという可能性があると思うのです。環境保全の担当課が、実はこういうものが出ました、関係する部分についていかがでしょうかと、審議会・協議会のある関係課については、是非そこで諮ってくださいという提案をしていかないと、委員が言われたとおりで出ないと思うので、これから検討体制について触れると思うのですが、含めていただいた方がよいのではないのでしょうか。

委員 議会の立場ですと、ひねくれた見方をしているかもしれませんが申し訳ございません。未来を共有する場づくりの流れの本筋は、今ずっと市民意識調査、その後のワールドカフェの流れがあり、先ほど出ているご意見がありますけれども、基本的には、これ

だけ手を広げてしまっている総合計画をもう少しスリムにしていきたい、あるいは今どうしても必要なものに集中していきたいという流れの中で作業が進んでいくという風に理解をしています。

もう一方で、市長と語る懇談会ですが、なぜここで見直しが必要になったか、どこへ重点的にお金を、支援を集中していかなければならないのかというテーマが 3 つ入っており、“防災”、“少子高齢化社会の対応”、“世界遺産”です。本筋の流れはできるだけスリム化していきたいという意向で流れているのですが、市長との懇談会というのは、言ってみると、どういうことをこれからやっていこうかという、言ってみればお金をつぎこんでいこうとする夢のある作業を分担しているようにどうしても見えるのです。そうしますと、市長さんにいい役回りをしてもらっているなと思うのですが、むしろどう削ったらいいかのアイデア募集を市長にしてもらおうのも一つの手かとも思っているのですが、そうではなくてこれからこういうことを増やしていきたいという部分を扱っている。これが 2 つ同時並行で進んでいくようにスケジュールが書かれているように見えるのですが、実際問題、市長と語る懇談会で出てきた意見、考え方というのは、どういう風に素案の中に反映させていこうとしているのか。あるいは、スリム化する方の作業のバランスをどう取ろうとしているのか、その辺がよく見えないご説明だったような気がするので、ご見解を伺いたいと思います。

幹事

ふらっとミーティングについてですが、ふらっとミーティングという形で今年やろうとしているのは、総合計画のためだけということではなくて、市長の思いとしては市民の方と直接お話をすることで色々な声をお聞きしたい、何か御用聞きをやろうということではなくて、直接市民の声をお聞きしたいという意向ももちろんございます。その中で、委員がおっしゃられている様に、基本計画の方の考え方から申しあげると、まさにスリムにしていきたい。それから、今回 3 本のテーマを挙げさせていただいておりますけれども、これも今ある重点の中から、ここが市長としては、市民の方に問いかけていきたいところということで、テーマとして 3 つ挙げているものと私は理解しております。その中で前提として、何でもかんでも今できる状況ではありません、というようなことを市長から事前に説明があると思います。この前段に、各地域でふれあい地域懇談会というものを実施しておりますが、その中でも市長が現状として鎌倉市の現状、そして将来このままではこういう状況になってしまうというご説明を、パワーポイントを使ってされている経緯があります。多分、前段にそういう説明を入れて、市長の思いについてお伝えすることになるのだと思います。その中では、夢だけをください、ということではなく、現状を見ていただいた上でご意見をいただきたいと私の方でもお話をしていきたいと思います。

それから、それをどうまとめていくのか、これはかなり厳しい話だと実は思います。色々なものを 3 本に絞っても、かなりのご意見が出ます。16 カ所で実施しますので、どのくらいの方が出て、どのくらいのご意見、先ほど会長がおっしゃれましたが、ワールドカフェで 5 つに絞る方法で実施しても、かなりの数になります。しかしながら、方法は同じ様に、ある程度キーワードを持ってまとめていくという作業は行っていかなければならないと思いますし、それを行って方向性、属性に沿ったものも含めて実施していく考えであります。具体的に、これをこういう風にまとめて、こういう風に作り上げたいという絵はお示しできないですけれども、ふらっとミーティングでもきちんとまとめて方向性を示していきたいと思います。

会長

アンケート調査に関連して、先ほど委員がおっしゃったと思いますね。前回の議論になるかもしれませんが、今回の基本計画策定に当たって、基本的な考え方を示した上で、この重要度・満足度の調査にお答えいただくのか、あるいはそれをまったくお示しせずに、お答えいただくのか、というのが多分選択肢としてはありうると思うのですが、前者と後方でアンケート調査の結果が変わりうるかもしれないと思っているのですが、その点をどう考えでしょうか。市側、場合によっては、市長のお考えをということかもしれませんが、例えばアンケート調査の冒頭である程度示した上で、例えば防災であるとか先ほど「市長と語る懇談会」での重要な 3 つのテーマになるのかもしれませんが、そういうことを冒頭で書いたうえでアンケート調査にお答えいただくのか、あるいはそういったことを全く書かずに、そのままアンケート調査にお答えいただくか。どうされるのですか。

幹事

今現在の考え方ですが、策定方針の趣旨のところに、財源的に厳しい話や、防災・減災に力を入れていかなければいけないという話を入れさせていただいております。今回、アンケートをお願いするに当たりまして、鑑といたしまして、そういった文章をつけさせていただきたいと思います。ある意味、それによりバイアスが掛かってしまうというという危惧は持ってはいるのですが、私どもの思いとしては、そういった中で基本計画を策

- 定していきたいというところはお承知の上でアンケートを頂戴したいと思います。
- 会長 委員 その方が市民の皆様が答えやすいと思います。
- この市民意識調査というものは、毎年経年的に実施しており、時系列変化をみようというものではないですよ。あくまでも、次期基本計画を作る上での基礎資料であり、第 3 期は基本的には市民の方は全くご存知ないのです。多分、鑑には、次期基本計画の基礎資料として皆さん意見を聴取します、と書きますね。では、なぜ、今頃やるのか。すると、当然前回お話があったように、緊急にやらないと乗り切れないということがまずあるということです。その中で、どう乗り切るかということ、基礎資料として、市民の皆様の意識を聞こうということは、平時にやるアンケートとだいぶ違って良いのではないかという気がしますし、その方が答えやすいのではないかと思います。
- 幹事 おっしゃるとおり、趣旨書きの部分につきましては、先ほど、市民の皆様にお知らせをしていきたいと申しあげたのですが、何らかの形で、危機的というのも強すぎるのかもしれないですが、今、変えなければいけないと認識しておりますので、そうした部分を分かっていたら説明を十分加え、更に、今現在こういった施策を進めておりますので、それら全てについて、ご意見を頂戴したいということもあるのですが、私どもの思いを伝えるような部分や設問が作れるのであれば加えることを、検討させていただきたいと思っています。
- 委員 ワールドカフェをやりますということは、この市民意識調査の段階で、告知になるのですか。
- 幹事 はい。市民意識調査のアンケート用紙をお送りする際に、ワールドカフェのご案内をさせていただくつもりでございます。そこが告知という形になります。
- 委員 今、危機的で非常に厳しい状況、現実をきちんとお伝えするというのは、私も市民としては必要だと思います。ただそれだけですと、悲しい気持ちになるので、だからこそアンケートに答えてワールドカフェをやりましょう、という結びを是非付けていただくと、意識の高い市民の方はアンケートに向かう気合が入ると思うのです。是非、それはお願いしたいです。
- 幹事 はい。告知、アンケートに付けるご案内の文章もございますので、そういう方向で検討させていただきたいと思っています。
- 会長 アンケート調査をお送りする際に、ワールドカフェのご案内状、私は招待状と言っておりますけれども、お役所的な開催案内や通知ではなくて、招待状というような心のこもった、場合によっては状況を詳しく説明したものをお付けして、ワールドカフェも招待状も併せてアンケート調査に同封されるほうが良いと思うのです。あ、こういうこともあるんだということが、受け取った市民の方がお感じになって、アンケート調査にお答えいただければ、それは素晴らしい結果になると思います。
- 幹事 そのとおりにさせていただく予定でございます。アンケート用紙の中に紛れ込ませてしまいますと、なかなか手を付けない、お気付きいただけない部分もありますので、しっかり見ていただけるように、別紙にして、皆様にご覧いただける様に少し工夫をしてお送りしたいと思っています。
- 委員 以前、100 人会議を経験した者として、100 人会議が全て良かったと思ってはいないですけれども、鎌倉のまちを真剣に考えようということで、手弁当で 150 人位が集まった経緯が過去にあります。今回はそれだけではなくて、サイレントマジョリティーの意見も等しく取り上げたいということで、今回の意識調査ですとか、無作為抽出の 2,000 名の方にアンケート調査をされ、その中からワールドカフェ参加者が出る、という形になる。それは、一方でとても大事なことだと思うので良い取組だと思います。けれども、長年にわたって市民活動をしている 400 団体が属する市民活動センターの運営を知っているものとしては、そこでは前回も申しましたけれども、一生懸命市政のことを考えて協力している団体がいるわけですね。そういう意見を聞いていただけたということなのでありがたいと思います。同様の意識で、先ほど委員もおっしゃいましたけれども、各協議会で何名もの委員が、その場合報酬をいただいて、長年の意見交換を職員ともしながら、総合計画に則った実施計画作り、例えば、図書館ですと、子ども読書活動推進計画等、法律ができればそれに合わせて計画を作り、文章を起こすところからやってきた、そんな協議会、審議会が沢山あると思うのです。鎌倉市には。そういうところの力も活かすような形でできないものではないでしょうか。今後の総合計画策定にはこういう緊急課題がある、財政的に厳しい、そういったことも踏まえて、実施計画作りをしているところもあると思うのです。協議会の中には、総合計画とかけ離れたものがないようにするために、協議会に投げていただいて、そこからの意見も、市民活動の意見同様吸い上げていただきたい。そんなに時間の掛かることでもないですし、各課に投げていただい

て、実施していただければ良いことなので、是非それを前向きに進めていただければと、重ねてお願いしたいです。

幹事 この後、役所の中の組織についてご説明させていただくのですが、各課が吸い上げるのは当然のことですので、策定組織の検討の中でもそのような形で、できる限り多くの方々の意見を頂戴してくださいという働きかけをしていきたいと思います。

会長 今話題に出ました、庁内の検討体制につきましても、かなり時間も過ぎておりますので、説明を行いたいと思います。仮に、前半の「未来を共有する場づくり等について」の質問等がございましたら、その後で合わせてということにした方が良いと思います。

(2) 庁内の検討体制について

会長 議題(2)の「庁内の検討体制について」、ご説明をお願いします。

幹事 庁内の検討体制について、説明させていただきます。庁内検討体制は、既に要綱がございます。鎌倉市総合計画策定委員会と、それとは別に、市役所の職員のできるだけ多くの意見をいただく場を設定することの2つの要素がございます。

詳細につきましては、担当よりご報告させていただきます。

事務局 (パワーポイントを用いて説明)

経営企画課の武部です。よろしくお願いいたします。

お手元の資料2、資料3、パワーポイントの説明資料をご覧ください。

はじめに、庁内の検討体制について、スクリーンで説明いたします。資料2をご覧ください。庁内の検討体制の中心組織体制として、副市長を委員長とする、「鎌倉市総合計画策定委員会」を設置いたします。そして、策定委員会の下部組織として、部会を設置し、必要に応じて部会の下に、ワーキンググループを設置できるようにいたします。

策定委員会の役割は、当審議会にお示しする基本構想及び次期基本計画(案)を作り上げることです。事務局が用意するたたき台を、ワーキンググループから部会、部会から策定委員会へとたたき上げていくのですが、その途中に先ほどご説明させていただき、未来を共有する場づくり等で出されました様々なアイデアやご意見、皆様の思いなどを、事務局で整理し、分析をさせていただきまして、策定委員会の素案作りに反映いたします。

また、庁内では検討組織として、策定委員会とは別に、職員参画による意見交換、こちらはワールドカフェの手法により行う予定ですが、そこで出されましたアイデアや情報についても、策定委員会の部会及びワーキンググループの方で吸収し、検討材料として活用する予定です。そして、全ての課題等を整理した結果として、最終的に基本構想及び基本計画(案)を策定しまして、当審議会でご審議していただくことを考えております。

なお、策定委員会は、第一次素案を策定するだけではなく、その後も継続して、第二次素案の策定、最終案の策定と最後まで作業を行うことになります。

続いて、総合計画策定委員会の内容について、説明いたします。根拠は、平成6年に制定しました、「鎌倉市総合計画策定委員会設置要綱」に基づきます。資料3をご覧ください。現在、要綱案の内容の一部を修正させていただく手続を行うため(案)とさせていただいておりますが、決定後、速やかに第1回策定委員会を開催する予定となっております。

次に、策定委員会の役割について、要綱第3条に所管事務としまして、“1 基本構想、基本計画の基礎指標に関する事項”、これは人口について、現行基本計画では大きく差異が出てしまっているのを、これを分析し、将来の人口動向を見直していきたいと考えております。“2 基本構想、基本計画の素案及び案の策定に関する事項”、“3 その他基本構想、基本計画の策定に関し、必要な事項”を定めています。策定委員会では、“1 未来を共有する場づくり等”、“2 職員参画によるご意見やアイデア”、“3 現行基本計画の総括評価”、“4 各種基礎調査”の結果などの行政資料を基に、これらを集約しまして、基本構想及び基本計画の案作りを進めていきます。具体的には、総合計画冊子の23ページをご覧ください。このページからはじまります、「平和・人権」などの政策分野ごとに記載されている内容について、例えば、「現状と課題」、次ページの「施策の方針」等の見直しを行いまして、この結果を、4、5ページにあります政策・施策の体系図に反映する予定となっております。

また、基本計画の各分野における目標について、計画を推進するための目標の達成度や、成果を明確にするために必要な指標の見直しを行い、再設定したいと考えております。そして、最終的にはレイアウトも含めてできるだけ分かり易い内容の基本構想

及び基本計画の素案や、案を作り上げていくことが策定委員会の大きな役割になります。

続いて、策定委員会の構成についてです。要綱第 4 条のとおり、委員長は、経営企画部を所管する副市長、副委員長はもう一人の副市長及び経営企画部長で構成します。また、委員は部長級等の職員で構成します。部会については、要綱第 7 条において、委員長は、必要に応じ、委員会に部会を設置し、部会の委員は委員長が指名する職員をもって充てるとしてあります。具体的には、課長級の職員が該当します。例えば、歴史風土部会については、こちらは世界遺産登録、文化財、景観、文化を所管する課の長が構成メンバーとなります。部会は、総合計画冊子の 4 ページ、5 ページをご覧ください。現行基本計画を策定した時には、「1 人権を尊重し、人との出会いを大切にすまち」から「6 活力ある暮らしやすいまち」という 6 つの将来目標と、「0 計画の前提」、「7 計画の推進」で全ての分野を網羅しており、それぞれに部会を設置し活用してきました。今回も 8 つの部会については、継続して活用します。それぞれの部会でぶら下がりしております各分野における現状と課題、目標、施策の方針について見直しを行っていきます。また、今回、新たに歳入確保と歳出抑制といった財源確保策に特化します「(仮称)経営戦略特別部会」と、防災・減災といった緊急を要する課題に特化する「(仮称)防災・減災特別部会」を追加して設置する予定です。なお、部会には全ての課長級の職員をいずれかの部会に必ず所属する様に設定する予定です。要綱第 8 条で、部会には必要に応じて部会長の指名する職員をもって、ワーキンググループを設置することができるようにし、担当課職員も各部会の状況に応じて、ワーキンググループとして策定作業を行うこととなります。

続きまして、職員参画についてです。名称は「(仮称)基本計画策定談話室」とし、ワールドカフェ形式で行います。期間は 10 月から 12 月までの間で約 50 回、1 回あたり 20 分で 3 ラウンド、5 人×5 テーブルで 25 人、延べ 1,250 人の参加を目標にしています。これは、市役所本庁舎だけの職員ではなく、消防、保育士、作業センター等の全ての職場の職員を対象にしています。テーマは、市民向けのワールドカフェと同様に鎌倉の未来に向けてのいくつかのテーマを考えています。例えば、新たな歳入確保の手法について、協働、市民参画について等を検討中です。我々、経営企画課職員が事務局として主催し携わる予定です。この(仮称)基本計画策定談室では、ワールドカフェ形式で行いますが、通常会議室で行うような機能的な会議や話し合いではなく、カフェのようなリラックスした環境の中、強制的ではなく反対や反論を禁止することで、より自由な発想で異なる職場の立場から意見交換をすることができ、知識や考えの共感や情報共有をすることで、つながりを感じ、日常で感じている課題や気づき、アイディア等新たな発見が生み出されることが期待されます。ここで収集する情報は、部会やワーキンググループで吸収し検討材料として活用します。そして、できあがった基本計画、基本構想の素案は、談話室参加者に対しても情報提供し、第二次素案、最終案策定までの過程で策定委員会の中で、再度検討する機会を設けるなど、情報の一方通行とはならない様な取組となるよう準備を進めます。

以上で、庁内の検討体制についての報告を終わります。

事務局 引き続きまして、議題 1 の議題となりました未来を共有する場づくり等と、庁内の検討体制の関係について、先ほどの資料 1 に沿って報告させていただきます。

まず、市民意識調査を実施いたしますが、その結果につきましては、分析をし、庁内の策定委員会における検討資料といたします。また、市民意識調査の結果は、ワールドカフェ、市民の皆様との場づくりの資料としても活用する旨を、先ほどご報告いたしましたが、市民の皆様との場づくりの結果につきましても、策定委員会の検討資料といたします。また、市民の皆様との場づくりの結果を受けまして実施いたします、関係団体の皆様との場づくりの結果についても庁内の策定委員会の検討資料といたします。

また、市長と語る懇談会につきましては、委員からもご指摘をいただきましたが、しっかりと分析しまして、策定委員会の資料としていきたいと考えております。以上、それぞれの取組の結果を、庁内で検討いたしまして、第一次素案を策定いたしまして、本審議会にご報告を申し上げます。その後、本審議会のご意見を踏まえまして、第一次素案の確定をさせていただきます。その後、第一次素案に対するご意見を市民の皆様や関係団体の方から頂戴し、庁内の策定委員会における検討資料として活用いたします。第二次素案を策定し、本審議会に報告を申し上げまして、ご意見を頂戴した上で、庁内で決定し、第二次素案を確定します。以上です。

会長 それでは、今回の件につきまして、ご意見・ご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

では、今回の「基本計画」策定に当たり、庁内の検討体制についてご説明いただいた、前回までと違う取組、今回はこういう点が前回と違うということが明確にございましたら、お話いただけますか。

幹事 今、ご説明を申しあげた中で、庁内組織の策定委員会につきましても前回の基本計画と同じ運営をしておりましたので相違はございません。ただし、前回の基本計画の策定の際も、職員の意見聴取というのは勿論しているところですが、任意の参加という形で展開しておりました。今回は、できれば全ての職員に参加してもらような形で、できる限り、職員に負担にならないという配慮も必要なのですけれども、例えば、昼休みに少し時間をとった形で、基本的には全員参加をめざして取り組むという部分が大きく違う点であると考えております。

会長 具体的には、職員参画というスライドがありますけれども、ここが決定的に違うということですね。全職員の参画による計画策定によるということですね。

幹事 8つの部会を設けることとは別に、2つの特別な部会を設けるというのも前回とは異なる部分です。

委員 2つの部会を設けることの狙い、内容をもう少し説明してもらえますか。

幹事 策定方針の中の趣旨でも申しあげたとおり、今現在、鎌倉市が財政的に非常に厳しい状態という前提がございます。その中で、一つには、できる限り事業を効率的に行うことにより歳出を抑え、なかなか難しいのですけれども、鎌倉市独自の取組を行えば非常に嬉しいのですが、歳入の確保に向けた取組は、これまでもネーミングライツといった検討はしているのですけれども、それに加えて、何かしら歳入を増やす方法も一緒に検討していきたいと考えております。

防災・減災につきましては、これまでも安全安心の部会の中で、災害対策という形で行っていたのですけれども、3.11の災害を踏まえまして、災害につきましては、特別な枠として部会を一つ設けていきたいと考えております。

委員 その経営戦略の新しく利益を生む部分というと、そこを考える時に市民が入っていないということになるのでしょうか。職員の中だけということですね。

幹事 職員の中だけと考えております

委員 こう言っては申し訳ないのですけれども、市役所の方はお金儲けが上手ではないと思うので、そこでこそ市民のアイデアが入ると良いと思うのですけれども。四国の徳島で葉っぱを集めて料理のつまものに、というのがありますよね。あれは一石二鳥にも三鳥にもなってすごく上手くいっているみたいなのですが、あの様なアイデアとか、あの様なことを実行できるかということは、庁内だけでは無理で、市民のアイデアとか、皆で知恵を出すということができれば良いのではないかと思います、いかがですか。

幹事 歳入確保につきましては、行財政行革の一環としてこれまでも続けてございまして行革市民会議というものが別にございます。そこで、そういった議論がされることがあります。基本計画策定期間の中で、これはというものはなかなか難しいと思いますので、継続して考えていかなければいけないと思っておりますので、そういった中で、市民の皆様からのご意見を頂戴しながら進めていくことができればと考えております。

委員 ワールドカフェのイメージを、もう少し自分なりに理解したいと思っているのですけれども、例えば職員ですと5人に分かれて5テーブルに分かれてやりますということが書いてあるのですが、市民の場合は170人という規模を、どんな風にコントロールし、1テーブル何人で、例えば職員の場合は20分3ラウンドとおっしゃいましたけれども、170人の方を一日、そのテーブルでどんな話を、また、メンバーが変わったら違うテーマで話し合うのか、それとも特別なテーマをそこでは設定していくのか、例えば手上げ方式で好きなところに行ってそういうことにするのか、その辺りをもう少しイメージがつかめると嬉しいのですが。

幹事 170人のワールドカフェですが、1グループ5人くらいのグループになります。ですから170人のご参加というと、かなりの数のグループを作らなければいけないのですが、1回目、2回目、3回目でテーマを変え、テーマは例えば、“鎌倉市にとって大事なものは何か”などを考えています。

最初に座ったグループから、途中で席替をして違うグループに流れ、最後には、私たちが実際に行ったワールドカフェでは、元のグループに戻るという形をとりました。現段階では、一つのテーマにつきまして、3回席替するようなイメージでおります。一つのグループだけで話し合うよりも、色々な方のご意見を聞くことができ、知識などを色々な形で吸収していき、最後のグループの中で、こんな話もあったということで、意見やアイデアを出し合うという流れになるかと思います。こういうものを、今回市民向けのワールドカフェにつきましては、一日がかりで行うのですけれども、テーマを3つないし4つ設定

- をしていきたいと考えております。こういうことを何度か繰り返していく中で、色々な方のご意見をどんどん吸収していきながら、必ずしも取りまとめをする必要はないのですが、意見やアイデアを出し合う作業をする、というのがワールドカフェになります。
- 委員 例えば、“鎌倉の未来に向けて”など、抽象的なものをテーマとおっしゃっているのですか。もっと具体性のあるものということではないのですか。
- 幹事 “鎌倉の未来に向けて”というのが、大きなタイトルになるのですが、その下に、例えば先ほど申しあげましたとおり、“鎌倉のどこに魅力を感じていますか”や“鎌倉のどこが大事だと思いますか”など、また、そういう質問をした後に“そういう鎌倉を守っていくために今どういうことをやらないといけないと思いますか”ですとか、比較的“鎌倉の未来にむけて”というぼんやりとしたテーマの下には、いくつかのブレイクダウンしたテーマを設けていきます。
- 委員 それは同時進行にやるのですか。
- 幹事 いえ、同時進行ではありません。先ほどの“鎌倉の未来に向けて”というのは大きなテーマになります。それをブレイクダウンしたテーマというものを設け、そういうテーマをいくつかセットをして、順番にやっていくような形になります。
- 委員 170 人がそのサブのテーマについて、一気に話し合うのですか。
- 幹事 一気に話し合います。
- 委員 4 つなら 4 テーマを持ったら、20 分でその話は終わりということで、その次のテーマに入っていって 170 人について、まあメンバーは変わるにしても一気に話をするわけですね。
- 幹事 20 分というのは、1 回目 20 分、2 回目 20 分、3 回目も 20 分というようなイメージになります。
- 委員 “鎌倉の未来に向けて”というのを、4 つくらいにサブテーマをつけて、それを一気にやるから、同じ土俵の上で 170 人がみんな話しますよという形になるわけですね。市民と職員の場合は色合いが違うと思うのですけれども、その辺りはどういう風に、職員が物申すという感覚になると、市民とはちょっと違い、現実を良く知っているような人達が話し合うのだから、策定委員会に対する物申すイメージというのは変わってくるのだと思うのだけれど、そこは意識していますか。
- 幹事 職員につきましても、ワールドカフェになりますので、それぞれの職員は職場を抱えておりますので、職場の意見が多くなる可能性もあるのですが、一人の職員として参加をしてもらうようなイメージでおりまして、そんなに職員と市民のワールドカフェにつきましては、大きく雰囲気としては変わるものではないと思います。ただし、職員につきましては、例えば、比較的若い年代のグループ、歳がある程度いったグループにグループピングをしまして、その 2 つをワンセットにして、前段で若いグループでワールドカフェを行い、そこで出た意見を今度は年上のグループに当ててみて、若い人間はこんなことを言っていますよというような形で、それを題材してワールドカフェをする。逆に年上のグループを先にやって、若い人にその情報を与えて、年上の人間はこう言っていますよという様な展開を考えるなど、少し工夫をしていきたいと思っております。
- 会長 補足しますと、カフェテーブルということで、テーブルを 5 人くらいで囲みます。170 人ですと 34 テーブル程度になります。グループごとということなのですが、3 ラウンド話し合いをすることを想定しますと、例えば話し合いは、問いに基づいて、話し合いをするということが原則です。問いを作らないと雑談になりますので、問いを設けます。例えばですが、“あなたにとって鎌倉の素晴らしさ、良さは何ですか”などという問いを置きますとその問いについて、20 から 30 分、第 1 回目で話し合う訳ですね。時間が来ましたら、次はどうなるかと言いますと、カフェホストを一人取りまとめ役として残して、残りの 4 人は他のテーブルに移っていきます。他のテーブルに移っていくのですが、4 人が同じテーブルに移らない、別々のテーブルに移るのが原則です。第 2 回目の話し合いを、例えば、“あなたが鎌倉が素晴らしさ、良さを最大限に実現したいとすると、どのような鎌倉の将来が見えますか”という鎌倉の将来ビジョンを問うような問いを仮に設けたとします。そうすると、その問いに基づいて第 2 回目の話し合いが行われるのですね。また、20 分ないし 30 分経ちましたら、席替なのですが、最初にそのテーブルでカフェホストになっている人は、そのままそこに残ります。残りの人はまた別のテーブルに行きます。その際に、元のテーブルに戻るというケースが基本型ですが、今回 170 人という比較的大規模の市民がお集まりいただくことになりますので、出来るだけ多くの人、多くの市民の方々とお話していただくという意味で言うと、元のテーブルに戻らない方が、私は感覚的に良いと思っております。そうすると、また違ったテーブルに移って話し合いをすることになります。何が起きるかということ、直接話し合う人の数がそれ

だけ多くなりますね。直接話し合った人の数が 5×3 でどんどん広がっていきます。実は、最初に話し合いをした内容がどんどん引き継がれていきます。第2ラウンド、2回目の話し合い前に、前の話し合いで何があったかということ共有する時間をとりますので、そのテーブルで話し合った内容プラス、新しくそのテーブルに座った人が前のテーブルで話し合った内容について、そのテーブルで伝えるのです。そういうことをしますので、話し合った内容がどんどん拡散して広がっていくことになります。そして、一番最後の意見交換のところで、各テーブルで話し合った内容を発表していただく、または、中央に模造紙が置かれておりまして、模造紙で話し合われた内容についてのキーワードが書かれていますので、それを共有する時間を設けるのです。自分のテーブルで話し合った内容が、ここでもここでも、ここでもここでも話し合いされている現象が起きていくのです。

100人であっても、イマジンヨコハマプロジェクトでは500数十人の市民の方々と話し合いましたが、何か知らないけれど、同じような形で、あたかも500人の横浜市民の皆様が、全員で話し合ったかのような雰囲気になるのです。これは擬似的かもしれませんが、話し合いの内容が引き継がれるということが、直接話し合った人の数がどんどん広がっていきますということで、何か分かりませんが、話し合いが数百人単位で行われているという様な状態になります。それがワールドカフェの特徴だということです。

委員 職員のワールドカフェについてです。ワールドカフェと言うと、なんだかすごく柔らかくて良いイメージなのですが、言い換えれば、少し前に流行った「グループ討議」とか、「集団討議」と方法論は実はあまり変わっていないと思うのです。私は職員間の議論は、単なる市民ではない行政のプロフェッショナルの皆さん・集団が行うゆえに、プロ同士が切磋琢磨します、これはそういう場ですと言っていた方が、市民の皆様に公表するのであれば、より信頼感が得られると思うのです。(そうした意図ではないと思いますが)職員の研修とか、あるいは若いジェネレーションと上のジェネレーションの考えが少し違うので、そのギャップを埋めますというのはそれ以前の当たり前のことです。運営として、各職員がもう少し上をめざす方法論とすると、ソフトにやるというのは結構ですが、その上で、志として、プロがプロ同士切磋琢磨する場、そういうイメージの方が良いと思います。

会長 伝え方は大事ですね。これは市民の皆さん向けでもそうですけれども、職員の皆さんへの伝え方ということでも大事ですね。

委員 サブテーマ、特に積み上げ型の方法論が、非常に重要だと思うのです。

会長 いかがでしょうか。もしなければ、この議題の(1)と(2)については終了させていただきます。今日いただきましたご意見、特にアンケート調査の冒頭にきちんと今回の基本計画の趣旨を書く、ご理解いただくような文章をきちんと書いておく、趣旨をお伝えするということを、繰り返し申しあげたいと思いますし、今日いただいたご意見については、重要な事項でありますので、実際に進めていくに当たって反映をしていただきたいと思います。

(3) その他

会長 議題(3)「その他」について、事務局から何かありますか。

幹事 次回のスケジュールにございますが、スケジュール上は11月の開催を予定しています。その際の議題は、「未来を共有する場づくり等の結果について」を予定しています。日程につきましては、ワールドカフェの開催日程が確定後、改めてメール等にて調整させていただきます。それと、しばらく間が空きますが、その間にご報告申しあげたい様な案件がございましたら、日程調整を別途させていただいてご連絡させていただきたいと思っておりますので、ご承知いただければと思います。

委員 「ワールドカフェ」は傍聴できるのですか

幹事 是非ご案内いたします。ご覧いただければどんな雰囲気かというのも分かると思います。

会長 委員の皆さん、ご質問新たにありますか。新たにないようですので、以上で、第3回総計審を終了します。ありがとうございました。

以上